

# 令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立第五中学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	50.6	50.1	49.1	51.8	51.2	50.2
2年	前年度結果 偏差値平均	50.2	49.5	48.8	50.7	48.8	49.5
	本年度結果 偏差値平均	48.1	48.2	47.5	48.4	48.5	47.9
3年	前年度結果 偏差値平均	48	50.4	47.6	50.3	50.2	49.3
	本年度結果 偏差値平均	48.9	50.9	48.4	48.6	50	48.8
全体	前年度結果 偏差値平均	49.7	49.8	48.3	50.3	48.7	49.3
	本年度結果 偏差値平均	49.2	49.6	48.3	49.6	49.8	49

### ②学習環境分析 Q-U 【1回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)	54	47	42	143
	割合(%)	57.4	46.1	51.2	51
二次支援	人数(人)	36	45	34	115
	割合(%)	38.3	44.1	41.5	41
三次支援	人数(人)	4	10	6	20
	割合(%)	4.3	9.8	7.3	7
学習意欲	学年(点)	16.9	16.4	16.4	14.3
	全国(点)	15.3	15.3	15.3	14.2

### ③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	理科
前年度結果 (対県比)	67 (107)	53 (92)	/
本年度結果 (対県比)	69 (100)	46 (92)	47 (96)

### ④学習環境分析 Q-U 【2回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)	66	79	62	207
	割合(%)	72.5	79.8	77.5	76.6
二次支援	人数(人)	18	20	18	56
	割合(%)	19.8	20.2	22.5	20.83
三次支援	人数(人)	7	0	0	7
	割合(%)	7.7	0	0	2.567
学習意欲	学年(点)	16.1	16.5	16.4	16.3
	全国(点)	15.3	15.3	15.3	15.3

## 2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各教科の領域別で全国比90%未満のもの             <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学 数と式(2年生87%)</li> <li>・理科 身の回りの物質(2年生89%)</li> </ul> </li> </ul> <p>昨年度に90%未満だったものは、国語 読むこと(1年生86%, 2年生89%), 数学 データの活用(1年生88%), 数と式(3年生87%), 英語 話すこと(1年生88%, 3年生89%)であったため、大幅に減少している。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国語は、評価の観点全てにおいて県の平均と同等であるが、読む能力を問う問題(問題番号3二)において県の平均より10ポイントであり、「場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基にとらえること」に課題がある。</li> <li>●数学は、県の平均と比較して4ポイントであり、特に数学的な知識・技能を問う問題である問題番号1が県の平均より18ポイント、問題番号4が県の平均より12.8ポイントと顕著に表れており、「基礎的な数学的知識及び活用の習得」に課題がある。また、正答数が0~5問の低学力層の生徒の割合が県の平均と比べてかなり高い傾向にある。</li> <li>●理科は、県の平均と比較して2ポイントであり、特に「地球」を柱とする領域の問題である問題番号6の正答率が低い。問題番号6(2)が県の平均より7.4ポイント、問題番号6(3)が県の平均より10.2ポイントと顕著に表れており、「思考・判断・表現」の観点に課題がある。</li> </ul>
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2年生はQ-Uにおける三次支援を必要とする生徒が10人で、全体の約1割を占めている。</li> <li>●学習意欲は全学年とも全国平均を上回っているが、NRTの全体偏差値平均は50を下回っており、学習意欲が学力の定着に結びついていない。</li> <li>●「学級内の規律と人間関係が不安定になっているクラス」が最も多く3学級あった。</li> </ul>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2・3年生は、三次支援を必要とする生徒が0となり、細やかな生徒指導や家庭連携など取組の成果が現れている。また、二次支援の生徒が半減し、生徒が満足感を持って学校生活を送れている。</li> <li>●前回と同様に学習意欲は、全学年とも全国平均を上回っており、年間を通して安定している様子が数値から読み取れる。</li> <li>●「まとまりのある親和的なクラス」が最も多く5学級と半数以上もあり、学校全体で生徒は落ち着いた学校生活を送れていることが読み取れる。</li> </ul>

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】</p> <p>①ICT機器を積極的に活用した授業づくりに向けた資質能力の向上。</p> <p>②全教員で「本質的な問い」の設定を意識した授業を実施。</p> <p>③教科ごとでの課題把握・分析、研究授業、検証、改善。</p> <p>④家庭学習の量(時間の増)・質の充実。30分未満の生徒数の削減。</p> <p>⑤学力の低い生徒に対する積極的な学習支援。</p> <p>⑥全国学力・学習状況調査に向けた学習支援対策。</p>	<p>①モジュール学習で全生徒が毎日ミライシート取り組む時間を確保することで、CBの活用と学力向上を目指す取組の実施。</p> <p>①CBを活用した研究授業を各教科で行い、全教職員での協議・共有。(取組の可視化)</p> <p>①各授業ごとに小テスト等を行い(フォームの活用)、基礎学力の定着を図る。</p> <p>②全教員が研究授業時に単元構想シートの作成に取り組み、「本質的な問い」の設定を意識した授業を実施することで授業改善を図る。</p> <p>③学校経営会議において改善計画を共有し、全教職員に周知。</p> <p>③全教職員での定期考査や実力テストの結果分析による課題の把握・明確化、それに対する事後指導の徹底・評価の還元。</p> <p>→全国学テの分析を各教科で実施し、それを職員研修で全体共有する。通過率の低かった問題を抽出し、その問題を実際に学習する学年で授業中に徹底的に反復練習を行い学力の定着を図る。(2年数学で実施済み)</p> <p>④授業や家庭学習の取組事例を全教職員で共有し、効果的な取組は取り入れる。</p> <p>→全国学テの通過率の低かった問題を抽出し、その問題をフォームで生徒に配布して取り組ませる。</p> <p>⑤学校組織体制の中に「学力向上部」を創設し、放課後に部活動の時間と並行して全生徒の学力向上に向けた取組の実施。</p> <p>→全国学テの正答数が0~5問の低学力層の生徒を中心に計算問題などの基礎的な知識・技能の習得を図る。</p> <p>⑥全教職員で通過率の低い問題の傾向を把握するための研修会を実施する。</p> <p>→令和5年度に向け、全国学テの改善計画を国・数・理の教科で提出してもらい、通過率の低かった問題を低学力層の生徒に繰り返し取り組ませ、基礎的な知識・技能の習得と学習意欲の向上を図る。</p> <p>⑥学力調査問題を授業時間に設定し、本番同様に実施、解説を行う。</p> <p>⑥学力調査問題の通過率の低い問題に対する支援としてMEXCBTを各教科で活用する。</p>	<p>①4月から実施</p> <p>①5月から順次実施(全員)</p> <p>①各学期1回</p> <p>②5月からの1人1研究授業で順次実施(全員)</p> <p>③各学期1回</p> <p>③5月から順次実施</p> <p>→9月から追加実施</p> <p>④5月から実施→9月から追加実施</p> <p>⑤5月から実施→9月から追加実施</p> <p>⑥2学期以降で実施</p> <p>→9月から追加実施</p> <p>⑥令和5年1月以降で実施</p> <p>⑥令和5年1月以降で実施</p>	<p>①教職員アンケート</p> <p>ICT活用(肯定的評価80%以上)</p> <p>→研究部で改善方策を検討</p> <p>②1人1授業時に単元構想シートの作成を必須化し、冊子にして全教職員に配布</p> <p>→「本質的な問い」の設定を教科横断的に交流</p> <p>③・⑤実力テスト(3年生5回・2年生3回・1年生2回)(偏差値平均50以上の教科を2教科以上)</p> <p>→定期試験も含めて、学年部・各教科で改善策を検討・実施</p> <p>→全国学テの改善計画から、国・数で低学力層の子どもの変容がわかるように指導(授業)→実力テスト→分析の流れを構築し、研究主任が集約する。</p> <p>④生徒アンケート・宿題(30分未満を一桁)、ICT活用(80%以上)</p> <p>→学年部で改善方策を検討</p> <p>⑥来年度の全国学力・学習状況調査</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>①生徒総会や運動会、絆祭等の行事を通して生徒の自主性・主体性を育成する。</p> <p>②QUの結果を、講師を含め全教職員で共有する。</p> <p>③QUを活用して、全ての生徒と学期に1回以上の教育相談(面談)を行う。</p> <p>④全学級で、提出物を期日を守って提出させる取組を通し、最後までやりきらせる達成感と責任感を養う。</p> <p>⑤全学級で、生徒が安心・安全に過ごせるよう情報モラル教育を実施。</p>	<p>①生徒会顧問を中心に、生徒の意向や思いを把握するとともに、実現に向けた指導・支援を行う。</p> <p>①全校集会・学年集会を隔週で実施(リモート実施を含む)し、学習の仕方や定期試験に向けた意欲喚起や生活に関する指導の徹底。</p> <p>②QUに基づき、SCと各担任とのコンサルテーションの実施。</p> <p>②ふれあい教室(校内・校外)と保健室、各担任の密な連携で生徒に寄り添った支援、CBの活用。</p> <p>③「第GOノート」を活用した生徒の実態把握と指導、保護者連携。</p> <p>③保護者との密な連携や家庭訪問、学期ごとの三者懇談。</p> <p>④学力向上部での活動と家庭と連携した試験週間に行う学力補充の実施により、学力向上と学習意欲の喚起。</p> <p>⑤生徒指導部と連携したCB使用における全学年統一ルールの運用</p>	<p>①随時</p> <p>②QU結果判明後(2回)</p> <p>③学期に1回(生徒アンケート・面談)</p> <p>④随時</p> <p>⑤随時</p>	<p>①・②・③生徒アンケート</p> <p>学校生活への満足度(90%以上)</p> <p>→生徒指導部で分析・対応</p> <p>②・③QUでの一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)</p> <p>→生徒指導部で対応</p> <p>②・③・⑤生徒・保護者情報の一元化(主任・管理職への報・連・相)</p> <p>→業績評価面談</p>

## 4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

<p>【今年度の成果と次年度にむけた改善点】</p> <p>○CBを活用し、本質的な問いを意識した「単元構想シート」を作成した研究授業を全教科で行い、全教職員での協議・共有することで、授業力の向上を図ることができた。</p> <p>●学力向上部の設置で低学力層への学習支援などの働きかけを行ったが、全体的な数値の向上につながらなかった。引き続き、来年度も学力向上の取組に特化して指導を行う体制を構築する。</p>
--

## 5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均		国語	社会	数学	理科	英語	全体
新2年	目標値 偏差値平均	54	51	50	51	53	52
新3年	目標値 偏差値平均	51	51	50	50	52	51

## 全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
目標値 (対県比)	70.3 (102)	48.9 (102)	50 (106)